

# いきいき 行田人

教え子たちに贈る

## 個展に込めた一筋の道

島田 鈴代さん (77歳・荒木)

忍中学校や行田中学校で数多くの卒業生を送り出した元教師で、「第二の人生作品展」として5月に産業文化会館地下創作室で個展を開催したのが島田鈴代さんです。

退職後、生涯学習講座で陶芸を体験し、のめり込むようになった島田さんは、その後、陶芸の絵付けのために始めた水墨画で掛け軸を制作したり、それに合う軸先や風鎖も陶芸で作ったりするようになりました。2年前、友達から「自分で作った茶わんでお茶をたててみたら」と提案され、盆の上で気軽に茶をたてる盆だてを覚えたことで、心にある変化が生まれました。「庭先に咲く花を作陶花瓶に生け、自作の軸を眺めながら手びねりの茶わんで一服。何とよい空間であり、よい時間が流れていく」このように感じる事ができたのは、大好きな武者小路実篤の詩「一筋の



道を歩くなり」に表されている一筋の道を歩んだ結果だと気付いたそうです。そして、「卒業するとき必ずこの詩を贈った生徒たちは、第二の人生を歩み始める年になる。この教え子たちに、自分の歩んできた道を参考にしてもらいたい」という願いと、喜寿の記念も兼ねた個展を開催することになりました。

中学3年生のときに担任した生徒たちへ贈る、学級会ともいうべき個展では、15人の教え子が自ら運営委員となり、半年以上も前から作品選びや会場設営をボランティアで手伝ってくれたそうです。「一つひとつの作品を連日鑑賞してくれた人をはじめ、200人以上の方が訪れ、それぞれ何かを感じ取ってもらえたことに涙し、運営委員が個展開催を祝い、私の名前の焼印が入った特注まんじゅうを作ってくれたことにまた涙。そして、来場者の皆さんから感想文として頂いた一言に再び涙。感動を与えるつもりでの個展で、感動をもらってしまいました」と話し、個展の成功を涙ぐみながら感慨深く振り返っていました。陶芸をはじめ、これまでさまざまな芸術活動を経験してきた島田さん。今回の個展で初挑戦し、その魅力を感じたという俳画が、新たに芸術活動の一つに加わり、これからも教え子たちの手本となって一筋の道を歩み続けることでしょう。

## 私の作品

### 俳句

白雲をゆったり運ぶ青田かな  
佐間 根岸 克美

麦秋や草の匂いの塩むすび  
行田 松村 照子

厨<sup>くじや</sup>疲れ癒<sup>い</sup>やす一輪紫蘭かな  
城西 橋本まさ子

定休日 決断迷ふ更衣<sup>ころもがた</sup>  
桜町 大塚 保子

芝桜しなやかに色奏<sup>かな</sup>でけり  
長野 内山 計江

接木<sup>つぎき</sup>して初めてつける柿の花  
星河 小林 英世

子はとうに社会人なり花は葉に  
北河原 儀員美智江

竹の子狩り掘るより重き帰り道  
門井町 森下さとし

柿若葉いろに湯船の染まりけり  
清水町 石川 裕美

ランドセル背に馴染<sup>なじ</sup>みきし五月かな  
清水町 新井 圭三

しゃぼん玉我が生きさまに似たるかな  
谷郷 米山 稔

茶柱のたちて嬉しき花の宴  
城南 橋本千枝子

蓮華草想い出の日や首飾り  
前谷 町田 貞子

母の日にクエッションの宅急便  
荒木 蛭間しげ子

朧<sup>おぼろつき</sup>月春の間へと紛れこみ  
矢場 鈴木かつの

### 『絵手紙』

五十部 さく(下中条)



◎皆さんの作品を募集しています。  
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へご応募ください。